



ケイビーエス株式会社

www.kbsjapan.com

【社内報ナルゲ】

날개(ナルゲ)とは韓国語で翼(つばさ)を意味します。



vol. 40
August 2008

❖ テレビ出演のウラ話 ❖

今回、幸運にもテレビに出演することができた。しかも、全国ネットである。詳しくは記事があるので、それを読んでいただくとして、ちょっとウラ話を紹介したい。

そもそも今回の出演の話は、大阪商工会議所から回ってきたもので、こういう機会も滅多にないので、応募することにしたのだが、一応書類選考があり、また面接もあった。私の知り合いも応募したが落とされたとのことなので、誰でも出演できたわけではないようだ。

放送は午後11時からだったが、生放送ではなく、昼の12時にTBSに集合し、打ち合わせやリハーサルを経て、午後4時半頃から本番というスケジュールだった。他の出演者も、韓国に関係した人や在日の人が多いのかと思っていたが、話してみると全くそんなことはなく、ごく普通の日本人たちが多いようだった。事前説明の時に、ディレクターが実際に質問できるのは7～8人ぐらいしかいないので、皆さんがんばってくださいとのこと。番組に出演することは周りの知

人には知らせていたので、もし質問できなければただのエキストラになってしまうという危機感を感じながら収録に臨んだ。

今回私が一番驚いたのは、ほぼ台本がないということだった。私も含めて、事前に質問者や質問内容が決まっていると思った人が多いと思うが、そういった制約は一切なかったのだ。番組の進行は生い立ちや南北関係、経済問題などテーマが変わっていくのだが、自分の用意した質問内容のテーマを待っていては当てられる確率が減ってしまうので、私はなりふり構わず毎回手を挙げ続け、本当に運よく経済問題のテーマの時に当てられて、自分が一番聞きたかった質問ができた。

今回、貴重な体験ができたのも、韓国のことならKBSさんと連絡をいただいた商工会の事務局のおかげです。

感謝、感謝。

代表取締役 高 允 男

こんな仕事しています！

お客様：プリ・テック株式会社様

今年1月、プリ・テック株式会社様よりパチンコ店の新聞折込チラシ用の中国語翻訳のご依頼をいただきました。チラシは日本／中国語併記で、企画及びデザインをプリ・テックさまが、チラシ内のキャッチコピー、サブコピー、コラム等を弊社で中国語翻訳しました。

弊社は様々な翻訳の経験がございますが、パチンコ店の分野は初めてでした。翻訳を開始してまずつまづいたのが、中国では「スロット」のようなものはあるのですが「パチンコ」はないようで、まずは日本のパチンコとスロットの機械の仕組みや、遊び方を一通り翻訳者と校正者に説明するところから始まりました。原稿は専門用語が多く、ネット等で用語を検索するのですが、意味が見つかったと思ったらその説明文の中に又専門用語があることもあり、たった1単語を翻訳するのに1、2時間かかってしまうこともありました。社員にも協力してもらったり、どうしても理解できなければ、プリ・テックさまからパチンコ店の方に用語の確認をしていただいたこともありました。新聞の折込チラシなので、納期が短いときもありましたが、時間の許す限り翻訳者と校正者とコーディネーターの間で、これでいいのか？もっと適した言い方はないか？とぎりぎりまでやりとりを繰り返しました。

初めての分野の翻訳は、調べることが多いので時間もかかりますし、本当に達成できるのか精神的な不安もあります。しかし、達成したときには充実感と、新しい分野の実績を得る事ができました。貴重なチャンスを与えてくださったプリ・テックさま、ありがとうございました。まだ、このお仕事は現在も続いておりますので、これからも精一

杯頑張っていきたいと思っております。

今回のお仕事以外にも、KBSでは幅広い分野のお仕事を承ってきました。新分野の翻訳を受けたときは、その都度精一杯調査し、相談し、読み手の立場に立ってわかりやすい翻訳になるよう努力を重ねてきました。その結果、広い翻訳分野に対応できることが弊社の1つの強みになっております。このような内容でも翻訳できるのだろうか、というお悩みの案件をお持ちでしたら、是非ご相談くださいませ。



社長、李明博韓国大統領とTV出演



あいにく大統領を始めとする出演者との撮影は許可されず…

4月21日23時よりTBS系列にて全国ネット放送されたニュース23スペシャル「熱論風発～李明博韓国大統領があなたと直接対話」という番組に、高社長が出演しました。李明博韓国大統領が100人の市民と対話するという内容で、過去にクリントン米元大統領や、盧武鉉韓国前大統領なども出演したことがある番組です。その日は、通訳としてSMAPの草薙剛さんも出演していました。

番組は、一般の出演者からの質問に大統領が答えるという形式で進行していくのですが、一般の人が100人もいるので、限られた収録時間の中で直接質問するのは難しそうです。それでも、番組も終盤にさしかかった頃、熱心なアピールの甲斐あってか(?)、幸運にも社長が質問者として指名されました。

社長は、出身地と出身大学が大統領と同じなので親近感を持っています、と前置きしてから、国家運営と企業経営の違いについて質問しました。大統領は、「いい質問ですね」と前置きしてから、社長の質問に的確に答えていました。

TV出演の反響も大きかったようで、さすが全国ネットの力、といったところでしょうか。ついでにKBSの宣伝もしてほしかったところですが^^;

なお、番組中の発言内容は、下記サイトで紹介されていますので、興味のある方はご一読ください。

<http://www.tbs.co.jp/news23/kiseki/20080421/>



スペイン語翻訳者 **オスカル・ランシエゴ** さん



二つの文化

Dos Culturas

¡Cómo pasa el tiempo! Ya hace 18 años de la primera vez que fui a Japón. Me acuerdo como si fuera ayer. Vivía en New York una vida placida como estudiante y decidí ir a Tokio para aprender un nuevo idioma.

Cuando llegué a la capital me di cuenta que todas las imágenes románticas que yo tenía del país (geishas, casas de madera con sus tradicionales jardines, etc.) no se podían ver en la ciudad.

Visto desde ahora me doy cuenta de la suerte que tuve pues era un país con mucha vitalidad en donde el dinero corría por todas partes y la gente era muy agradable con los extranjeros.

La gente gastaba por gustar: clases de idiomas, bolsos de marcas, grandes banquetes a los que se invitaba a mucha gente y trabajo, mucho trabajo. Así pasaron los primeros meses de mi estancia en Japón.

Yo todavía no entendía nada. Tuve que estar el primer año para balbucear lo suficiente japonés como para pedir un café en un Mc Donald's.

Pero cuanto más te cuesta algo más empeño que pones y me acuerdo que no dejaba de ir todos los días a mis clases para estudiar. Sin embargo lo que era evidente que tenía que estudiar era la forma en la que se utilizaba el idioma.

Así pasaron los días y todavía no había descubierto una de las razones por las que me quedaría tantos años en Japón, bueno las dos razones. Una mi mujer y la otra la gastronomía.

En mi país se dice que al marido se le gana por el estómago. Yo conocí a la que iba a ser mi mujer y ella me descubrió su gastronomía. Ganar, no sé si me ganó (todavía estamos peleándonos, broma) pero lo que sí pasó es que me quede más de 15 años saboreando la gran gastronomía japonesa.

Gracias a esto, me di cuenta lo difícil que es explicar con palabras ciertas cosas, que hay cosas que no tienen traducción, o se experimentan o nunca sabrás que quieren decir.

Un ejemplo el Sashimi, traducido al inglés "Raw Fish" pero nunca será lo mismo, o lo pruebas o no se entenderá qué es.

Yo, como traductor, prefiero decir Sashimi y después dar una explicación: es una técnica culinaria japonesa por la que se prepara el pescado para realzar las texturas y los sabores del pescado preservando su frescura. (como se ve en esta explicación no se puede traducir con dos palabras, es necesaria una explicación muy extensa).

En la actualidad vivo entre San Sebastián (mi ciudad que está en Euskal Herria, norte de España) y Tokio (mi segunda ciudad). Trabajo como traductor y me sirve para no perder contacto con estos dos sitios que quiero.

En el futuro me gustaría seguir traduciendo y seguir trabajando para fortalecer el entendimiento mutuo entre estas dos culturas en las que estoy inmerso.

時が経つのはなんと早いことか！初めて日本を訪れてからすでに18年になる。つい昨日のこのようだ。ニューヨークで悠々とした学生生活を送っていたときに、新たな言語を勉強するために東京へ行く決心をした。

大都会に着いたとき、そこにはそれまで日本についてイメージしていたもの（例えば、芸者、伝統的な日本庭園のある木造の家など）は見当たらなかった。

今から思えば僕は運が良かった。なぜなら当時日本は活気にあふれ、お金はあちこちに飛び交い、人々は外国人に対して優しくかった。

人々はよくお金を使っていた。外国語教室に通い、ブランドのバッグを購入し、また宴会を開いて大勢の人を招いたり。そして仕事もたくさんあった。このように日本で最初の数か月が過ぎて行った。

当時は日本について何もわかっていなかった。マクドナルドでコーヒーを注文するために十分な日本語を習得するのに一年もかかった。

しかし、人は困難であればあるほど頑張ろうとするものであって、一日も休まずに日本語学校に通ったことを覚えている。明らかだったのは、言葉そのものよりも、その言葉の使い方を学ばなければならなかったということだった。

このように月日が過ぎて行ったが、そのころはまだ、その後それほど長く日本に滞在することになるであろう理由に気づいていなかった。理由は二つあった。ひとつは妻、そしてもうひとつは日本の食文化だ。

僕の国では「男は胃（袋）で勝ち取る（料理の上手い女性は良い夫を得るという意味）」という言葉がある。のちの妻となる女性と出会い、彼女の食文化を発見することができた。はたして彼女は僕のことを勝ち取ったと言えるのか？今でもよく喧嘩するし…。（これは冗談だが）しかし15年間、日本の偉大な食文化を堪能してきたことは確かだ。

これら食の経験は翻訳の仕事にも活かされた。言葉による説明が難しい言葉があること、翻訳のしようがない言葉があることに気づいた。それらはそのものを味わったり体験しない限り翻訳不可能である。

例えば「さしみ」。英語では“Raw Fish”とよく使われていたが、決して「さしみ」と「Raw Fish」が同じものとは言えないであろう。「さしみ」を食べたことがない限り、それを理解できるはずはない。

僕だったらこのようなときはまず「Sashimi」とそのまま訳し、そのあとに説明を加える。

「Sashimi」：鮮度を損なわず、その味わいと食感を際立たせるように魚を調理する日本料理のテクニック。（このように長い説明が必要となる。単に二つの単語の組み合わせによって翻訳するのは不可能だ。）

現在は生まれ故郷であるサン・セバスティアン（スペインの北部、バスク地方にある町）と東京（第二の故郷）に住んでいる。翻訳者として働いているが、翻訳の仕事は自分にとって大切なこの二つの都市の結びつきを保つという意味でも役に立っている。つまり翻訳をしている限り二つの都市が離れてしまうことはないのだ。

僕自身が置かれている二つの文化の相互理解をさらに深めるためにも、今後も翻訳者として働き続けたいと思っている。

自転車

韓国珍道中は、今始まった。

会長 高仁鳳

歳に焦りが出てきた

新井さんと私、二人は自転車に乗って、この2008年4月25日から、韓国一周旅行をはじめた。

本当はもっと早くからはじめたかった。体力的にも、出来るだけ若いうちにした方がいいと思ったからだが、いろいろな事情があり、今年からはじめることになった。とにかく始まった。

いま私は67歳で、あと3年で70歳だ。60歳を過ぎてから「あつという間に」過ぎていくように感じる。このごろは、焦りさえ出てきた。あれもこれも、やらなくちゃと。

3年で韓国一周

新井さんは61歳、共に5月生まれで、私の方が6つ年上だ。3年で、韓国一周ができるかどうか、分からないが、とにかく、最後には、38度線を越えて行くまで、続けて行くつもりだ。

そのためにも、体には気をつけねばならない。あまり、無理をすることなく、進めるようにする。

新井さんと私は、いいコンビだ。それぞれ役割が決まっている。別にこうしようと決めたわけではないが、自然にそうなった。新井さんは私より若いだけあって、自転車を担いでバスに乗せたり、自転車のトラブルがあったときはなおしたりする。自転車のパンク修理など得意だ。わたしは、これが全く出来ないのだ。

私は韓国語が出来るので、コースやスケジュールを決めたり、先頭を走って、道を尋ねたりする。また、私はカメラが好きなので、記録を撮る。ビデオカメラ2台と、デジカメ1台を持って、撮影する。そして、webなどにアップして、記録を残すようにする。いずれビデオを編集して、韓国自転車旅行のビデオ作品が出来ればと思う。いや、それも記録として、編集して、残すようにしようと思う。また、韓国自転車旅行記のような本を出版できたらいいなと思う。

ふたりはいいコンビ

本当にふたりはいいコンビだ。私ひとりではとてもこのような自転車旅行なんて、できない。ふしぎと、呼吸があう。新井さんには、本当に感謝する。これからも、いろいろと、迷惑をかけるにちがいない。

現在、ひと月に1回、4泊5日の予定で進めている。冬の寒いときは、外さなければならないだろう。12月、1月、2月の3カ月は行くことが出来ないだろう。

いま、2度の自転車旅行で分かったことだが、これからはもっと効率を考えて進むようにすべきだ。坂の多い所とか、自動車専用の国道などは自転車で走らず、高速バスなどに乗って、その道は飛ばすようにする。

それで、高速バスターミナルなどがどこにあるか、前もって調べておいた方がいいことが分かった。韓国で市外バスに自転車を乗せることは簡単であることが、今回わかったから、大いにバスを利用すべきだ。



泊まる場所は、チムジルバン（サウナ）がいい。これを基本にする。また、場合によっては、ヨインスク（旅の宿）に泊まるか、だ。もちろん、予約はしない。そのときの行きあたりばったりだ。

コースは自由自在

現在、釜山からスタートして、西まわりで進んでいる。南の端の島のまわりなどだ。

やがて、慶尚南道を過ぎて全羅南道へ進むことになる。

今までのコースは、

第1回目、4月25日～29日、フェリーで釜山に着き、釜山港から西の方へ自転車を進めた。釜山→鎮海→昌原まで。昌原からは車で釜山へ戻る。フェリーで大阪へ。

第2回目は、6月1日～5日、飛行機便で釜山へ→車で昌原まで、昌原→固城→統営→巨済島、船で釜山に戻り、釜山から飛行機で大阪へ。

第3回目の予定は、7月22日～26日、釜山空港からバスで晋州へ。晋州→泗川→南海島、の予定だが、あくまでも予定。どうなるやら。

基本的にはこのように進むのだが、時には、済州道を周ったり東まわりの、蔚山、慶州、大邱などへも行ったり、内陸部へ進んだりもする。それはそのときの気の向くままに進むのだ。

この自転車旅行は、ただ自転車で走ることだけが目的ではない。出会った人と話し合ったり、そして、その地方のおいしい料理を食べたり、いろいろな景色を見たり、体験することだ。

いろいろと、出会いがあった。

昌原での豚足屋と金さん。鎮海のサンギョプサル食堂の夫婦、釜山食堂のアジュモニなど、親切な人たちのお世話になった。これからも、多くの人との出会いがあるだろう。

この旅行では新井さんに対して、本名で呼ぶことにした。新井さんの本名は、朴正泰（パク・チョンテ）だ。それで、「チョンテ!」と呼ぶ。新井さんは、私に、「ヒョン（兄さん）!」と呼ぶ。

新井さんのルーツを訪ねる

1回目の自転車旅行で、新井さんのアボジ（父）のルーツを訪ねることが出来た。

新井さんのアボジが生まれ育ったところ、20才まで住んでいた昌原市東邑。いまは家もなく、道もない柿畑に変わっていたが、そこは、すこし山の方だ。この高いところから新井さんは見下ろして、「父は20才の頃、ここから見ながら、日本で一旗揚げようと、思って、日本に渡って行ったんやね」と、想像する。

2回目の訪問では、オモニ（母）のルーツを訪ねた。

そこには、チョッカ（甥）が住んでいた。オモニは2004年に百歳でこの世を去ったが、この甥に40年ほど前に会ったことがあるという。オモニは、18歳の時、新井さんの父を追いかけて後から日本に来たという。苦勞して新井さん兄弟を育てた。

これら韓国自転車珍道中に関しては、「鳳@bongのpage」<http://www.inbong.com/>と、bongのブログ <http://bong.cocolog-nifty.com/>に詳しく載せている。





中国の56民族

56個民族



翻訳部 王映方

中国是一個統一的多民族國家，由56個民族組成。由於漢族人口眾多(占全國總人口的91.6%)，習慣上把其餘55個民族統稱為少數民族。55個少數民族中，100萬人口以上的有壯、滿、回、苗、維吾爾、彝、土家、蒙古、藏、布依、侗、瑤、朝鮮、白、哈尼、黎、哈薩克、傣18個民族，其中壯族人口最多，達1800萬人；10萬至100萬人口的有畚、傣、仡佬、拉祜、東鄉、佤、水、納西、羌、土、錫伯、仫佬、柯爾克孜、達斡爾、景頗15個民族；不足1萬至10萬人口的有撒拉、布朗、毛南、塔吉克、普米、阿昌、怒、鄂溫克、京、基諾、德昂、烏茲別克、俄羅斯、裕固、保安、門巴、鄂倫春、獨龍、塔塔爾、赫哲、高山(不含台灣高山族人口)、珞巴22個民族，其中珞巴族人口最少，不足3000人。

漢族分布在全國各地，主要聚居在黃河、長江、珠江三大流域的中下游和東北平原。55個少數民族雖然人口少，但分布的地區卻很廣，約占全國總面積的64.3%，主要分布在東北、華北、西北、西南的邊疆地區。雲南省居住著20多個民族，是中國民族成分最多的一個省份。由於歷史上多次的民族遷徙、屯田、移民以及朝代更迭等原因，中國各民族的分布形成了又雜居又聚居、互相交錯居住的狀況。這種局面，為漢族與各少數民族之間在政治、經濟、文化上的廣泛交流，以及在少數民族聚居區實行民族區域自治制度提供了客觀條件。

關於56個民族的介紹，就留待下一期在做詳細介紹囉！敬請期待。



中国は56種族の民族からなる統一国家である。漢民族の人数が最も多く(全人口の91.6%を占める)、他の民族は少数民族と呼ばれている。そして、漢民族を除く55の民族の中で、人口が100万人を超えるのは、チワン族(壯)、マン族(滿)、ミャオ族(苗)、ウイグル族(維吾爾)、イ族(彝)、トゥチャ族(土家)、モンゴル族(蒙古)、プイ族(布依)、トン族(侗)、カザフ族(哈薩克)、ヤオ族(瑤)、チベット族(藏)、チョウセン族(朝

鮮)、マン族(滿)、リー族(黎)、ペー族(白)、タイ族(傣)、ハニ族(哈尼)の18の民族である。その中でも、チワン族の人数が一番多く、1800万人にも達する。人口が10万から100万の間の民族は、チンポー族(景頗)、ラフ族(拉祜)、リス族(傣)、ナシ族(納西)、ワ族(佤)、チャン族(羌)、トゥー族(土)、トンシャン族(東郷)、ダフル族(達斡爾)、ショオ族(畚)、スイ族(水)、コーラオ族(仡佬)、キルギス族(柯爾克孜)、ムーラオ族(仫佬)、シボ族(錫伯)の15民族である。そして、人口が10万人以下であるのは、アチャン族(阿昌)、ドアン族(德昂)、ジノー族(基諾)、トールン族(獨龍)、ヌー族(怒)、プーラン族(布朗)、サラ族(撒拉)、ユーグ族(裕固)、ポウナン族(保安)、エヴェンキ族(鄂温克)、オロチョン族(鄂倫春)、タジク族(塔吉克)、ウズベク族(烏孜別克)、タタール族(塔塔爾)、ロシア族(俄羅斯)、マオナン族(毛南)、キン族(京)、メンバ族(門巴)、ロツパ族(珞巴)、ホジョン族(赫哲)、タカヤマ族(高山)(台湾のタカヤマ族は含まれてない)、プミ族(普米)の22民族である。この中では、ロツパ族の人数が最も少なく、3000人にも満たないようである。

漢族の居住地域は全国各地に分布しているが、主に黄河・長江・珠江の中下流地域と東北平原に住んでいる。それに対して他の55の少数民族は人口は漢民族に比べると少数ではあるが、分布地域がかなり広く、中国全土の面積の約64.3%を占めるほどであり、主に東北・華北・西北と西南の周りの地域に住んでいる。また、中国の雲南省は、56民族中の約20民族が住んでいるという人種が一番多い省と言われている。

長年にわたった歴史の移り変わりの中で、各民族は「大雑居、小聚居」(それぞれの種族が広範囲に散在し他の民族の集落と混在していて、また、その中での同民族同士は小さな範囲でかたまっ生活している)という状況をうみだした。それは漢民族や他の各少数民族間での、政治・経済・文化などの広い範囲での交流につながり、また民族区域自治制度の実施のための客観的条件を提供するものとなったのである。

各56民族についての詳細内容の紹介は次号へと続きます。乞うご期待！





KBS 2008年 焼肉大会 in大阪城公園

営業企画部 上間 行洋

去る6月7日(土曜日)、2008年KBS焼肉大会を開催しました。ゲストに(株)アプロメディアステーションの新井社長と渡嘉敷部長、稲木チーフの奥さんとお子さん、李次長と奥さんと娘さん、そしてKBS社員10名が参加者です。今年も梅雨どきの開催となったので、天候が心配されましたが、この日はうまい具合に晴れて、それでいて暑くもなく、過ごしやすい好天に恵まれました。



王さん指導の下、台湾式BBQの準備

午前11時に環状線森の宮駅で集合、特に遅れる人もいなかったため、11時半頃には大阪城公園内の好ポイントと思われる場所も決定し、荷物も運び終えた。

すぐさまみんなで準備にとりかかる。淀川河川敷での焼肉・花火大会から、大阪城公園での焼肉大会に場所と時間は変わったが、その十数回の経験がものをいい、料理の下ごしらえ、味付け、盛り付け、バーベキューコンロの設置、火起こしなども順調にはかどり、あっという間に「さあ焼こか!」となる。こうなると、後は早い。食べる人は、「まだ焼けへんか」、焼く人は「はよ食わな焦げるで」てな具合であっという間に一段落。それぞれ、お腹もふくれ、アルコールもほど良くまわってやや満足。



李次長ファミリーも参加

ここで新井社長と渡嘉敷部長。そして療養中の李次長が奥さんと娘さんに付き添われて参加。この焼肉大会を楽しみにしていた次長は、感激のあまり熱いものがこみあげる一幕もありました。また、目の前に並ぶ焼肉やチヂミ、うまそうなキムチを食通で知られる李次長はしっかり味見して、後ろ

髪を引かれる思いで早めに戻って行きました。

しかしながら大会というものは、ここからが本番。第2弾、第3弾の肉を焼きながら、シートのあるところで話の花が咲き、それぞれに心ゆくまで飲み・食い・しゃべり、誰かが「この辺でお開きにしましょう」と言わなければ、永遠に終わりそうもないほどに、楽しい時間を過ごしました。

(株)アプロメディアステーションの新井社長と渡嘉敷部長



子どもの名前

制作部 慎 佳代子

昨年の秋に結婚し、もうすぐ1年が経とうとしていますが、この経過の中で一番の大きな変化。それは結婚記念日の1週間後に赤ちゃんが誕生するかもしれないこと。(予定日は9/30) そう、現在妊娠9ヶ月なのです。

妊娠初期の頃は、自分のお腹の中にもう一つの生命が宿っているとは中々実感できませんでしたが、今や私が寝ていようがおかまいなしに蹴り上げられ、その他のマイナートラブルも少しの運動で動悸、激しく息が切れ、夜中に足がつったり、腰痛で起き上がれなかったり…。それでも、何と云っても今は身は1つ。実際は「あの頃はまだマシだった。」と思う日がくるのかもしれませんが。☺

さて妊娠が判明し、つわりに悩まされる前から「子どもの名前をどうしよう?」と話し合っていました。名前は親が子どもに贈る1番最初で一生のプレゼントです。韓国では、同じ本貫(日本で言う本籍地)の場合、始祖から数えて同じ代の場合、同じ漢字を使って命名するケースも多いのです。言い換えると、どの代なのかによって使用する漢字が決まっているのです。また、日本においても名前に使える漢字とそうでない漢字があったり、漢字そのものに含まれる意味が名前には好ましくない場合は受理されないそうです。結婚式を挙げるときにも悩んだ在日韓国人の定め、「韓日のしきたりを考えて」かつ、親から子どもへ贈る素敵な名前…。いくら

悩んでも、なかなか思い通りの名前を思いつくこともなく…。しかも、まだ男の子なのか女の子なのかもわかっていないのです。(診察の時の超音波検査では、いつも隠れていてハッキリしないのです(汗)) ということで、ここはもう素直にプロに頼もう、と姓名鑑定士さんをお願いすることにしました。「なんやそれ!」とツッコミが入りそう…。これから生まれてくるわが子の誕生日を元に命名するそうで、これなら「ああ、早く決めなくては」とあれこれ悩むこともなく、まずは生まれてみないと占えないわけで、これで心おきなく出産に集中できるというものですね。☺

昨年は編集長まで務めさせていただいたナルゲへの投稿も、産前産後休暇を経て育児休暇に入るので、しばらくお休みさせていただきます。ナルゲ(翼)という名前は、母鳥が大きな翼で雛たちを羽に抱いて守るという思いで付けられたそうです。次号のナルゲが発刊される頃には、わが子の名前も決まっていることでしょう。ナルゲと言う名前に負けないくらい、素敵な名前が命名されることを祈って…いざ、出産に挑みたいと思っております!👶

発音について

KBSまだん韓国語講座講師
金 幸 春

ハングルの発音について、すべてがルール化されていれば学習するのにこんな楽なことはない。特に今日話題にする“濃音”についてはどうだろうか？

それではまず“濃音”についてルール化されている事柄をいくつか述べてみる。

その①

平音「ㄱ, ㅋ, ㆁ, ㄷ, ㅌ」は、先行するパッチム「-k, -t, -p」とぶつくと濃音になる。この現象を平音化という。

例；【-k】학교(学校)、각도(角度)、국보(国宝)、
역사(歴史)、학자(学者)

【-t】술가락(さじ)、혓바닥(舌)、뒗자리(ござ)

【-p】입국(入国)、잡담(雑談)、엽서(葉書)

その②

漢字語で、ㄷパッチムに続く音節がㄹ, ㄴ, ㅍで始まる場合、つまり初音がㄹ, ㄴ, ㅍの漢字音の場合は濃音化し、それぞれㄷ, ㄴ, ㅍになる。

例； 발달(発達)、발사(発射)、발전(発展)、출두(出頭)、
출생(出生)、출전(出展)、일정(日程)、결정(決定)、
불상(仏像)

その③

複合語における後部要素は濃音になる。

例； 손등(手の甲) 손뽕, 길가→(道ばた)길까,
몸짓(身振り)→몸짖, 등불(灯火)→등뽕

以上その①からその③までが“濃音の発音”のルール化されたものである。ではこれ以上に“濃音”で発音するケースはないのか？ あるんです。だから疲れる。

文法書ではこう記述される「慣用語に濃音化される場合がある」(無条件に覚える！ということ)

例； 조건(条件)→조건, 내과(内科)내과,
성과(成果)→성과, 민법(民法)→민뽕,
한자(漢字)→한짜, 단점(短点=短所)→단점,
인권(人權)→인권

以上“濃音”の発音についてひと通り整理してきましたが、皆さんもこれ以上はないのかどうかひとつ考えてみてください。

私が思うに“濃音”でしか発音しない漢字語があるんじゃないか？

例えば価値の価(가)・・・代価(대가)、
物価(물가)、評価(평가)、廉価(염가)はすべて濃音、
そして格式の格(격)・・・品格(품격)、
人格(인격)、は濃音、
しかし資格(자격)は濃音ではない。

韓国語の“濃音の発音”は侮れない。



「KBSまだん」では、楽しい韓国語講座を開講中！

「初級コース（火曜日）」

毎週火曜日、夜7時～9時までの2時間（全10回）

講座内容：『初級』韓国語文法・会話の基礎を学んでいます。

現在、「初級Ⅱ」（カナダ社）をテキストに使用しています。以前勉強していたのに途中でやめてしまった方も、再度チャレンジしてみたいかがでしょう。また、韓国語を勉強した経験のある方、文字が読める方は極めてでもOKです。

■受講料 ●KBS まだん講座初参加の方……………20,000 円

●KBS まだん講座2回目以降の方…15,000 円

※受講を検討されている方のための、無料見学を受け付けています。お気軽にお問い合わせください。

TEL 06-6716-5665 KBS まだん韓国語講座まで

【個人情報の取扱について】

この社内報「ナルゲ」は、お取引先・外注先・協力関連先の皆様にお送りしております。

ケイビーエス株式会社は、お客様の個人情報を合理的かつ適切に管理し、業務の目的以外に使用いたしません。また、法令に基づき開示が義務づけられるなどの特段の事情がない限り、第三者に開示・提供することはありません。

当社が管理するお客様自身の個人情報について、お客様から内容確認、修正・更新・削除の要請を受けた場合には、お客様の意思を尊重し、合理的な範囲で必要な対応をいたします。

当社は、お客様の個人情報の保護に関する法令・規範を遵守すると共に、その取り扱いについては、適宜その見直しと改善に努めます。

夏季休暇のお知らせ

このたび、下記の通り夏季休業させていただきます。誠に勝手を申しますが、なにとぞご高配のほどよろしくお願い申し上げます。

8月14日（木）～8月17日（日）

編 集 後 記

●前編集長の佳代子さんが出産のため休暇をとるので、私が今期の社内報の編集長になりました。全く編集経験のない私は非常に困惑しています。もし私の「無知」が原因でKBS社内報の品質が落ちたらどうしよう…、と心配していました。幸い、今回の夏号は佳代子さんがサポートしてくれ、かつ社員達の協力によって、やっと【社内報ナルゲ40号】を予定通りに発刊しました。

【社内報ナルゲ】表紙のデザインについては、39号までは社員達がデザインや提案をしたものでしたが、今

回は読者の皆さまに新しいナルゲの表紙を感じていただけるよう、台湾のアーティストに表紙のデザインを依頼しました。暑い夏に、読者の皆さまへ涼しい風をお届けできればと思っています。

KBSの会長の口癖は「やればできる」。私はいつも難しい仕事、新しいことの挑戦をする時に、その言葉で自分を励まします。今回も「やればできる」の精神で編集長の役目を果たしました。

【社内報ナルゲ40号】が皆さまの手元に届き、そのナルゲが皆さまに認められ満足していただけたら、それが私への最大の励みだと思います。今後、より一層魅力的な社内報を作り続けるために、皆さまからの貴重なご意見をいただければ嬉しく思います。

(カク)

発行日 2008年8月1日

発行/編集 ケイビーエス株式会社
〒544-0033
大阪市生野区勝山北2-16-17
電話 06-6716-5665
FAX 06-6711-2804
E-mail info@kbsjapan.com
URL http://www.kbsjapan.com/